

【報告】

現代中国の仏教教育機関

——浙江仏学院を中心に——

引田弘道・呂 其俊

1. はじめに

2017年8月18日から19日にかけて、中国浙江省寧波市奉化区に位置する、浙江仏学院において、太虚大師円寂70周年記念、太虚大師思想国際学術研討会が開催された。同会議は3部に分けられ、第1部会のテーマは「太虚大師と人間仏教」、第2部会のテーマは「人間仏教の現代的発展」、第3部会のテーマは「人間仏教と中国仏教現代化」であった。同学会に今回、愛知学院大学から宗教文化学科の林淳教授と引田が参加し、本学大学院生の呂は原稿の中国語訳と質問の通訳を務めた。

同学院の経営母体は雪竇山資聖禪寺（雪竇寺）であり、現在の住職（方丈）は怡蔵法師、中国仏教協会副秘書長、浙江省仏教協会会長、浙江仏学院院長をも務める。ここは天童如浄禪師の師として有名な雪竇智鑑禪師ゆかりの寺である。最近巨大な弥勒菩薩像を安置したことでも有名である。2017年6月27日、怡蔵住職を団長、惟祥監院を副団長とした、僧13名、信徒25名の雪竇寺一行が曹洞宗宗務庁を訪問された。同寺は2007年、弥勒宝殿にて梅花流詠讃歌の奉詠が行われたのをきっかけに、曹洞宗との交流が始まり、2年前から梅花流師範有志の指導のもと、同寺の復興事業として、居士の修行や布教のために詠讃歌の研鑽を積んでいる¹⁾。

この学会の大きな特徴は、中国共産党・仏教学者・各地の仏教協会

が共催している点にある。これは日本の仏教学会と大きく異なる点であろう。中国共産党（党政部門）としては、国家宗教事務局から同副局長の蔣堅永氏を初めとする7名、浙江省からは同省人大常委会副主任の毛光烈氏を初めとする8名、寧波市からは同市人大常委会主任の余紅芸氏を初めとする5名、奉化区からは同区委書記の高浩孟氏を初めとする8名が名を連ねていた。党、つまり政府の意気込みが一目で分かる。次に仏教界からは、中国仏教協会会長の学誠法師、同副会長で、普陀山仏教協会会長の道慈法師、中国仏教協会副会長で、江蘇省仏教協会会長の心澄法師、同じく中国仏教協会副会長で、湖北省仏教協会会長の正慈法師等が参加された。また台湾からも法鼓山住職（方丈）の果東法師、台湾人間仏教研究院院長の覺培比丘尼も参加され、兩岸の仏教交流が垣間見えた。研究者（専門家）からは北京大学宗教文化研究員名誉院長の樓宇烈教授、中国社会科学院荣誉学部委員の楊曾文教授、中国社会科学院学部委員の魏道儒教授らが参加された。

2. 太虚と人間仏教

清末の衰弱した仏教に活力を与えたのは、在家の「居士仏教」であり、その代表は楊文会（1837-1911）である。彼は南京に「金陵刻經処」を創設し、数多くの仏教典籍を刊行した。彼は南条文雄と知り合い、南条の協力のもと中国で散逸した仏教典籍を日本から逆輸入した²⁾。彼の弟子に太虚と歐陽漸がいる。太虚は寧波天童寺で具足戒を受け、南京で楊文会の祇洹精舎に学び、仏教改革の運動に取り組んだ。1922年、武昌仏学院を創設した。その他、閩南仏学院、柏林仏学院、漢蔵仏学院などの開設にも関わった³⁾。太虚の主張は「三大革命」として知られる。これは教理革命・教制革命・教産革命をいう。このうち、教理革命とは、仏教は現世の問題に多く注意を払うべきであり、ただ死後の問題だけを探求すればよいのではないという主張であり、教制革命とは仏教の組織、僧制は改善されるべきであり、最後の教産革命とは、仏教の寺院財産は十方の僧侶の共有財産にすべきだ

という主張である⁴⁾。太虚は教理革命に基づき、1925年頃から「人生仏教」の考えを打ち出した。彼は死者の亡霊や他界の鬼神を祭ることを重視する旧来の仏教を批判した。死者の亡霊より現実の人生を重んじ、鬼神の世界より人間社会を重視することに力点をおいたのである。次に彼は人・天・声聞・縁覚・菩薩の五乗のうち、人乗、つまり現実の人生と社会を特に重んじた。また「人生仏教」は個人の生活と道徳的向上のみならず、他者や社会全体の利益に寄与するために慈悲の実践を要求している⁵⁾。

3. 浙江仏学院

3.1. 現代中国の仏教教育機関

従来、仏教教育は中国仏教を復興する重大な課題として仏教界に注目されてきた。近代の中国仏教は日本仏教と欧米のキリスト教の制度から影響を受けた。また現代的な仏教教育は中国の清末民初から始まった。1900年、日本人水野梅暁は中国の長沙で仏教師範学堂を創立した。1906年、覚先和尚は北京で僧教育会を創立した。1907年、先の楊文会（字は仁山）居士は南京の金陵刻経処で祇洹精舎を創立した。1914年、月霞法師は上海で華嚴大学を創立した。その後、武昌仏学院、閩南仏学院、漢蔵教理院、鼓山仏学院などが中国全域で続々と設立され、中国仏教の復興に大きな役割を果たした。

1949年に中華人民共和国成立後、「文化大革命」の十年を経たにもかかわらず、中国政府は「信教自由」の政策を堅持している。中国の仏教は法律の範囲では自由な発展が許されていると言えよう。しかも改革開放の後、中国経済の成長に伴い、中国の仏教もかつてない規模で発展している。

現在、中国における仏教教育は主に仏教外の総合大学（大学院を含む）と仏学院に大別される。総合大学は中国社会科学院大学院、北京大学、中国人民大学、清華大学、中央民族大学など数十ヶ所あり、大学の本科に入学できる学歴、およびそれと同程度の学歴があれば、僧

侶でも入学できる。一方、仏学院は中国仏教界にとって僧侶を育成する重要な機関である。現在、中国仏学院、浙江仏学院、閩南仏学院などの70余りの仏学院がある。そこには専門的な尼僧仏学院も含まれている。例えば浙江仏学院尼衆部、五台山普寿寺尼衆仏学院、四川尼衆仏学院等が挙げられる。いずれも尼僧を育成する専門的な教育機関である。また李〔2011〕は中国福建省の仏学院の教育内容を詳細に紹介している。

仏学院の中でも最も古く歴史のあるのは、北京の法源寺にある中国仏学院である。これは1956年に創設されたが、文化大革命の頃活動をいったん停止し、1980年12月に活動を再開した。当初は2年制であったが、1982年11月には4年制となり、同年9月には本科卒業生の中から選抜し、3年制で仏教高級知識僧の養成を行っている。蘇州靈岩山と南京栖霞山に分院を併設している⁶⁾。中国仏学院は北京の広済寺に本部をおく中国仏教協会によって運営されている。この協会は1953年に結成され、やはり文化大革命のとき一時中断したものの、数年に一度全国代表者会議を開催し、規則と役員を決め、活動を総括してきた。1993年10月9日採択された「中国仏教協会章程」第1条には、同協会は「全国各民族の仏教徒の連合した愛国団体であり、教務組織である。」と定義されている。その趣旨は、人民政府が宗教信仰の自由の政策を貫徹するのに協力し、仏教徒の合法的な権益を保護することにある⁷⁾。つまり政府と仏教界との橋渡しの存在であると言える。1987年同協会は中国仏教文化研究所を設立し、雑誌『法音』、『仏教文化』、『仏学研究』を発刊している。現在の第9期（2015年-）会長は学誠法師である。

3.2. 雪竇寺

浙江省には日本との関係の深い有名な寺院がある。例えば、寧波の天童寺、そこから数キロ離れた阿育王寺、省都の杭州市にある靈隠寺と、西湖湖畔にある浄慈寺、天台山国清寺、普陀山の普済寺などである⁸⁾。このうち、大きな観光寺院でもある靈隠寺には「杭州仏学院」

（僧・尼僧）が、同じく多くの信者で賑わう普陀山には「普陀山仏学院」（僧・尼僧）がある。その他、慈雲庵には「慈雲仏学院」（尼僧のみ）がある。

今回、報告する「浙江仏学院」は中国の国家宗教事務局に認可された仏教大学（4年制）である。同学院は浙江省寧波市奉化区溪口鎮雪竇山風景区にあり、傘下に雪竇山の弥勒仏学院、天台山万年寺の天台仏学院、温州仏学院の3つの分院がある。同学院には学部本科と大学院修士課程が開設されている。北宋の仁宗皇帝は夢の中で雪竇山へ訪れたと言われている。それ故、「応夢名山」という名を得た。雪竇山は古来からの仏教文化がある一方、美しい景色でも有名である。

雪竇山に位置する雪竇山資聖禪寺（雪竇寺）は晋朝に建てられ、唐宋の時代に隆盛となり、今日まで1700年間余りの歴史を持つ。従来、弥勒菩薩の根本道場として知られている。雪竇山は山西省の五台山、浙江省の普陀山、四川省の峨眉山、安徽省の九華山とともに「中国五大仏教名山」と呼ばれる。雪竇山は数多くの名僧を輩出しているが、中でも宋代の雪竇智鑑禪師（1105-1192）は1184年に雪竇山に晋山した。その時、僧は数多く、寺院は非常に隆盛したと言われている。その後、彼は寺の東庵に隠居し、紹熙3年に88歳で円寂した。彼の法嗣の天童如浄禪師（1163-1228）が日本曹洞宗を開かれた道元禪師の師であることは先に述べたとおりである。

3.3. 浙江仏学院の歴史

雪竇山の仏教教育は太虚大師に始まる。民国時代、仏教改革の指導者、太虚大師は雪竇寺の住職（方丈）を務めた時、弥勒の精神を高揚すべく弥勒道場の建築に力を注いだ。彼は人生仏教を提唱し僧侶の教育を推進した。彼は雪竇寺に「農民読書夜校」を創立し、「信衆学修」を「雪竇附属仏事」に追加した。太虚大師の影響を受け、雪竇山の法昌寺は「女子仏学院」を創立した。これらが現代の雪竇山の仏教教育の基礎になると考えられる。

1995年10月、雪竇山の弥勒道場の文化を高め、「応夢名山、弥勒道

場」の名を喧伝するため、さらにまた僧侶を育成し、寺院の持続的発展を可能にするため、雪竇寺の住職（住持）である怡蔵法師は太虚大師の志を継承して、「奉化弥勒僧伽培训班」を創立した。怡蔵法師は自ら教育計画を立案し、自身も培训班的講師を務め、「仏教学基礎」、「梵唄」、「中国語」などの基礎教養を雪竇寺に常住する僧たちに講義した。

1996年8月、奉化市人民政府民族宗教事務科の許可を得て、「奉化市弥勒僧伽培训班」が正式に開設された。さらに、2002年4月から教育環境を改善するため、雪竇寺の西南に位置する華林⁹⁾苑内に敷地面積約20畝¹⁰⁾の華林苑講義棟の建設を開始し、同年11月、機関誌『慈光通讯』を創刊した。2006年6月、講義棟が完成、弥勒僧伽培训班乙班も開設される。また太虚塔院も教育地区の範疇に組み込まれた。そのため、同学院の敷地面積は約70畝に拡大した。

2007年9月、「弥勒仏学院」が開校。この仏学院は教育部門と管理部門の必要性に応じて、事務、教務、総務などの部署が設置された。院長は1名で雪竇寺の住職の怡蔵法師が兼任。その他、副院長1名、教務長1名、副教務長1名、事務室主任1名、総務1名、学監1名の合計7名の人員であった。当時、弥勒仏学院は漢語系の仏教初級学院¹¹⁾であり、学制は2年、各年度は42週で、1回の授業は45分。仏教学の開講科目としては経、律、論及び各宗派の基本教理。また戒、定、慧の三学を柱に、大乘と小乗の教理科目がある。開講科目全体は仏教学と人文社会の2種に大別され、仏教学は全体の70%、政治、中国語、歴史、地理などは人文社会科目として全体の30%を占める。2010年4月、教育規模の拡大に伴い、華林苑（後に、華林講寺）の入り口に山門（天王殿）、放生池、大雷音殿和厢房等が建設された。

2011年3月、雪竇山の尼僧寺院の大慈禅寺に「学院女衆部」が正式に開設し、学僧の募集が始まった。学院女衆部は敷地面積が約80余畝。

このように、弥勒仏学院は中国の仏学院で高ランクに位置する、施

設・機能を完備した漢民族の十方叢林寺院である。また独立した講義棟と学僧寮があり、学院内の環境もよく、最新の生活施設が完備されている。また開講科目も整備され、学僧の教育体系は完成したものだと言えよう。20年の間に、本仏学院に女衆部を含めて合計11期、300名余りの僧・尼僧が学び、そのうち113名が上級仏学院に進学した。

2013年、国家宗教事務局の許可を得て、4年制の全国的な仏教教育機関として「浙江仏学院」が誕生した。翌年の5月17日には雪竇山で開校式が開催された。これにより、弥勒仏学院は本科生の教育を目指した4年制の「浙江仏学院雪竇山弥勒仏学院」に昇格したのである。これは実に歴史的な意義をもつものであり、ある意味当山の祖師たちの心血の結晶でもあるとも言えよう。また、国家宗教事務局、浙江省民族宗教事務委員会、寧波市民族宗教事務局、奉化市民族宗教事務局等の上級指導者たちを初めとした社会各層の多くの人々からの支持を得た結果でもあろう。同学院は国家宗教事務局の主催する「全国宗教会議」の精神に従い、弥勒思想の高揚を特色とし、法相唯識の教育を第一とする。また「人間仏教」の理念を強調し、「以解導行、以行驗解、解行相応、与时俱進」を建学の精神とする。「愛国愛教、信仰虔誠、徳才兼備」の僧・尼僧を継続して育成することにより、社会平和を実現し、中国の伝統文化の拡大と進展を促進するために力を尽くすことが教育目標である。

3.4. 浙江仏学院の組織体系

浙江仏学院の主管は浙江省仏教協会であり、同時に寧波市仏教協会、寧波溪口雪竇山仏教協会と奉化市仏教協会にも管理されている。具体的な教務事項は寧波雪竇山仏教協会が担当している。同学院は、院務委員会の下での院長責任体制をとっている。院長は宗教教育と教育規律を守り、「自主独立」の原則を堅持し、先進的な教育理念を持ち、教育内容と設備を充実させることに努める。院務委員会は同学院の政策決定機関であり、その構成員は院長、常務副院長、副院長、教務長と事務室主任等であり、下部組織として事務室、教務、総務がある。

院長の怡蔵法師（1969-）は臨済宗法脈の第四十二世として明暘長老に師事、同時に天台宗法脈の第四十六世として永惺長老に師事、さらに、曹洞宗法脈第四十九世として茗山長老に師事した。怡蔵法師は山西省の晋城に生まれ、1988年に山西省の五台山碧山寺で出家し、1991年から1994年までに中国仏学院栖霞山分院と中国仏学院で学んだ。1994年7月に寧波市仏教協会事務室副主任を務め、1995年2月に寧波七塔寺の副監院となった。1995年8月に雪竇寺の住持に就任、1999年9月19日に同寺の方丈になる。十年の間に、彼は雪竇寺の重建、太虚講寺の建設、弥勒学院の創立、弥勒大仏の製作などを遂行し、多大な功績がある。現在、上述したように、中国仏教協会副秘書長、浙江省仏教協会会長などの要職を務めている。

浙江仏学院の教員は「全国仏教院校聯席會議」の精神に従い、教師資格を取得している。在籍教員の90%は講師以上の職名をもち、平均年齢は44歳。他校からの協力のもと浙江仏学院を建設し、仏教文化事業の発展を促すために、「互惠互利、合作共赢」の原則に基づき、浙江仏学院は寧波大学との『合作框架協議』に調印した。寧波大学は浙江仏学院との協力関係のもと、4年制の本科の教科課程案を作成し、一般基礎科目と仏教学基礎科目の授業に教員を派遣した。また仏教基礎培訓班、学歴提高班、文化專題系列講座等を開設して、僧侶の文化的素養を高めている。浙江仏学院と寧波大学の双方は共同して研究を行い、多くの学術研究会、フォーラムなどを開催してきた。寧波大学は2名の事務員を派遣し、浙江仏学院の建設計画と日常事務に関する連絡を緊密に取り合っている。

浙江仏学院は中国社会科学院世界宗教研究所、中国人民大学、浙江社会科学院、浙江大学、南京大学等の多くの中国国内の大学及び台湾仏光大学等と長期の提携関係を結び、定期的に講師を招聘し、学術講座を開催している。また、海外で開催される仏教思想学会や交流会にも積極的に参加し、仏学院の教育水準を高めている。

3.5. 浙江仏学院の教育施設

浙江仏学院のキャンパスは新キャンパス、雪竇山華林講寺（僧部）、大慈禪寺（尼僧部）の3つのキャンパスからなる。雪竇山華林講寺は敷地面積が約70畝あり、建築面積が6887平方メートル。主な施設としては一般教室（2室）、特殊教室（2室、コンピューター室、書道室）、図書館（蔵書3万冊余）、坐禅堂、講堂、書道室、食堂、会議室、学生寮、法師寮、バスケットボール場、バドミントン場などがある。2013年から運動場、図書館、大講堂、坐禅堂、講義棟等を改造し、講義棟、法師寮、学生寮等を修繕してきた。2013年8月に学僧用の新しいテーブルと椅子を購入、2014年9月から華林講寺で使用。これによって施設の整備が進んだ。2015年5月に図書館、坐禅堂の建て直しが始まり、6月に合成樹脂製舗装運動場が完成、バスケットボール場（1室）、バドミントン場（2室）、卓球場（2室）も設けられ、より快適な運動環境を提供することが可能になった。10月には講義棟、法師寮、学生寮の修繕も実施された。2016年6月に学院大講堂を改装し、環境整備に努めている。

浙江仏学院尼僧部は大慈禪寺に開設されている。敷地面積は約80畝、建築面積は6625平方メートル。主な施設は教室（2室）、殿堂（2室）、図書館、五観堂、台所、シャワー室及び公共洗面所、法師（講師）用の寮、学生寮（30室）、事務室、控え室、車庫、公文書保存室、マルチメディア教室、コンピューター室がある。図書館は電子管理のもとで、蔵書が3万冊余ある。主に経蔵、辞書、史書、政経、歴史一般、人文、地理に関する図書がある。運動場はバスケットボール場、バドミントン場などがある。室外には緑地と百畝近くの公園林がある。教育、研究、宗教生活を保障する快適空間となっている。

新キャンパスは布教地区と教育地区という二つの地区に分けられている。布教地区には一般信者との交流の場としての典型的な仏教施設や弥勒聖壇が設けられている。弥勒聖壇の設計は仏教の須弥山を表現したものである。弥勒聖壇にある竜華法堂は5000人を収容でき、大

規模な法会、仏典講義、説法講座、学術研究会を開催する機能を持っている。さらに最新技術を完備しているため、ここでは仏教芸術の展示も可能である。また、布教地区には中国と台湾の兩岸仏教文化研究交流センターと弥勒文化博物館等がある。

一方、教育地区は敷地面積が235畝、建築面積が5万平方メートル。主に4つの区に分けられる。即ち、教育区、生活区、公共施設区、礼仏区である。教育区には講義棟、管理棟、坐禅堂、コンピューター室、マルチメディア教室、アーカイブ、階段教室がある。生活区には法師寮、本科僧寮、娯楽センター、合成樹脂製舗装運動場がある。公共施設区には図書館、仏学院会議センター、留学生寮等がある。礼仏区は伝統的な構造で、大雄宝殿、天王殿及び東西配殿等が配置されている。新キャンパスの図書館の建築面積は4821平方メートルある。

3.6. 浙江仏学院の科目構成

浙江仏学院は弥勒思想の高揚を理念に掲げ、法相唯識、弥勒浄土の法門、弥勒禅法を主たる教育内容とする。さらに「人間仏教」の理念を教育目標に組み入れている。教科内容は経・律・論及び各宗派の基本教理、さらに戒・定・慧の三学、大乘と小乗の教理などである。仏教思想以外に一般的な人文社会科目も開講している。

本科は4年制で、各学年は上・下学期に分かれる Semester 制。毎学期の課程時間は20週で、1週間5日制である。科目は仏教学と人文社会の2種類に分けられる。仏教学は全体の70%を占め、政治、中国語、歴史、地理などの人文社会科目は30%、そのうち政治は10%を占める。必修科目は18、選択科目は7。必修科目には仏教学と人文社会学があり、仏教学には、「仏教史」、「弥勒思想論」、「中観学概論」、「禅宗概論」、「実修行儀」等の10科目がある。

本科（4年間）の課程

一年

第1学期			第2学期		
科目	課時 (週)	総課時 (学期)	科目	課時 (週)	総課時 (学期)
印度仏教史	3	60	印度仏教史	3	60
戒律学綱要	3	60	仏教学基礎	3	60
阿含選読	3	60	俱舍論	3	60
古代漢語	4	80	古代漢語	4	80
英語	4	80	英語	4	80
世界史	2	40	世界史	2	40
西洋哲学史	2	40	西洋哲学史	2	40
写作	2	40	写作	2	40
政治	4	80	政治	4	80

二年

第1学期			第2学期		
科目	課時 (週)	総課時 (学期)	科目	課時 (週)	総課時 (学期)
中国仏教史	3	60	中国仏教史	3	60
仏教各宗大意	3	60	禪宗概論	3	60
法華経	3	60	金剛経	3	60
百丈清規	4	80	六祖壇経	4	80
古代作品選	4	80	古代作品選	4	80
日本語	4	80	日本語	4	80
中国史	2	40	中国史	2	40
中国哲学史	2	40	中国哲学史	2	40
コンピューター	2	40	コンピューター	2	40
政治	4	80	政治	4	80

三年

第1学期			第2学期		
科目	課時 (週)	総課時 (学期)	科目	課時 (週)	総課時 (学期)
大乘起信論	3	60	浄土宗概論	3	60
撰大乘論	3	60	浄土三部経	3	60
大乘百法明門論	3	60	維摩詰経	3	60

解深密経	4	80	十二門論	4	80
中論	4	80	沙弥律儀	4	80
二課合解	4	80	実修行儀	4	80
布教学	2	40	布教学	2	40
政治	4	80	政治	4	80

四年

第1学期			第2学期		
科目	課時 (週)	総課時 (学期)	科目	課時 (週)	総課時 (学期)
弥勒上生経	3	60	菩提道次第略論	3	60
唯識三十頌	3	60	楞嚴経	3	60
八識規矩頌	3	60	肇論	3	60
人間仏教專題	4	80	東亜仏教專題	4	80
実修行儀	2	40	実修行儀	2	40
布教学	2	40	布教学	2	40
政治	4	80	政治	4	80

1) 必修科目。仏教学は以下の10科目である。「仏教史」（中国仏教史、印度仏教史、世界仏教史）・「弥勒思想概論」（八識規矩頌、唯識三十頌、撰大乘論／解深密経、慈宗三要、弥勒三経）・「中観学概論」（三論玄義、百論、中論、十二門論）・「天台宗概論」（教観綱宗、天台四教儀、童蒙止観、法華導読）・「禅宗概論」（中印禅宗史、禅宗宗派源流、六祖壇経、金剛経）・「華嚴学概論」（華嚴五教章、華嚴経導読）・「戒律学」（戒律学綱要、四分律、菩薩戒）・「浄土宗概論」（弥勒浄土、弥陀浄土、薬師浄土等仏浄土思想、浄土宗教程）・「実修行儀」（禅林清規、梵唄、僧伽作持、仏事儀軌、仏教礼儀、禅堂規矩、坐香、念仏、上殿、過堂、禅七、仏七等）・「布教学」（講演と弁才、弁論技巧、国内外の仏教動向）。

人文社会学科目は以下のとおり。「政治」・「語文」（古代漢語、大学語文、文学鑑賞）・「外国語」（英語、日本語、韓国語、仏教英語、仏教日本語、仏教韓国語／英文仏教講読、パーリ語、梵文）・「漢語言写作」・「管理学」・「中国哲学史」・「西洋哲学史」・「体育、武術」。

2) 選択科目。「仏教史科学」・「コンピューター」・「仏教芸術」（建築、造像、絵画、撮影、美学、書法、梵楽）・「仏教論理学」・「比較宗教学」・「寺院実践」・「東アジア仏教専題」・「弥勒学と人間仏教」。

3) 大学院修士課程の選択科目。「經典選読」（楞嚴經、法華經、円覚經、華嚴經選読、四分律、大乘起信論、菩提道次第広論、略論、俱舍論、阿含選読、阿毘達磨選読、大智度論、瑜伽師地論等）。

同学院は座学と同時に実践活動も重視している。例えば仏教文化、梵唄、武術などの科目も推奨し、学僧たちを他の寺院や社会活動の場に送り、実践仏教に参加させている。学生の派遣により、寺院間の提携がよりいっそう強まっている。

一日の学習スケジュール

内 容	時 間	備 考
打 板	05:30	初一、十五、仏誕日の際に、予定の半小時以前に開始
早 殿	06:00-06:45	
朝 食	06:50	
予備ベル	07:40	
一限	08:00-09:20	
二限	09:40-11:00	
昼 食	11:10	
午 休	11:30-13:30	
予備ベル	13:30	
三限	14:00-15:20	
武 術	15:40-17:10	雨の場合、「共修」に変更
薬 石	17:30	
晩 課	18:30-19:15	
夜自習	19:30-20:15	
(寮) 消灯	22:00	

3.7. 国際交流と大学間提携

浙江仏学院は中国社会科学院、中国人民大学、浙江社会科学院、浙江大學、南京大學等の国内の大学との協力関係に調印したほか、台湾の仏光大學、タイのマハーチュラロンコンラージャヴィドゥヤ大學

とも提携し、大学間の交流協定や定期的な学僧の派遣に合意した。同学院の教育レベルを高めるために、講師や学僧を海外の大学に派遣する一方、海外からの留学僧受け入れにも積極的である。最近、タイからの留学僧が同学院の女衆部で勉強している。

浙江仏学院は台湾の仏光大学と「校際合作框架協議」に調印し、「優勢互補、資源共享、互惠互利、共同发展」という互惠の精神のもと、双方の大学間の交流と共同研究プロジェクトを通して、大陸と台湾との仏教文化の交流を促進する予定である。

2015年、院長の怡藏法師はカンボジアの孤児院を訪問した。同年、浙江仏学院はインドネシアの弥勒文化研究促進会からの招待を受け、インドネシアを訪問した。訪門中、会長の楊慈瀚、副会長の陳朝明、インドネシア弥勒仏教会総主席陳精平の歓待を受けた。浙江仏学院一行は弥勒文化促進会のリーダーたちと一緒に Komplek Gemara Asri（慈光弥勒仏院）、ジャカルタ国家宗教部、文化教育センター、ジャワ島中南部のジョグジャカルタ市、プランバナナ寺院群、東部金融センター、泗水の天宝弥勒仏院、バリ島のプリサレン王宮等の八ヶ所を訪問した。今回の訪問は両国の弥勒文化の交流を促進しただけではなく、奉化弥勒菩薩の大慈精神を国際的に広めたと言える。

[謝辞] 今回の浙江仏学院の資料に関しては、同学院の副院長で、雪竇寺監院の惟祥（法恩）法師に多大な協力を頂いた。感謝申しあげたい。

注

- 1) SOTOZEN-NET
- 2) 陳 [2010: 330].
- 3) 末木・曾 [1996: 34-36].
- 4) 何・松森 [2011: 218, n. 1].
- 5) 陳 [2010: 346-347].
- 6) 末木・曾 [1996: 117-118].
- 7) 末木・曾 [1996: 126].
- 8) 末木・曾 [1996: 373-378].

- 9) 弥勒が将来成仏する場所、龍華樹に因んだ名前。
- 10) 1 畝は中国語で、1 ヘクタールの15分の1。
- 11) 1992年に開催された「全国漢語系仏教教育工作座談会」によると、仏学院は高級・中級・初級に分かれ、高級は4年制、初級は2年制と定められた。それとは別に3年制の研究生（大学院生）のクラスを設け、高級仏学院卒業生より入学させた。末木・曾 [1996: 162].

参考文献

- 何建明著・松森秀幸訳. 2011. 「人間仏教の百年の回顧と再考察—太虚、印順、星雲を中心に—」『東洋学術研究』50-2: 199-219.
- 魏道儒著・菅野博史訳. 2010. 「中国仏教と現代社会—太虚・印順を中心として—」『東洋学術研究』49-1: 81-93.
- 坂井田夕起子. 2015. 「中華人民共和国の対外工作と仏教（1952-1966年）」石井慎浩編『現代中国文化の深層構造』京都大学人文科学研究所.
- 末木文美士. 1992. 「現代中国仏教の研究」『東洋文化研究所紀要』119: 273-352.
- 末木文美士・曹章祺. 1996. 『現代中国の仏教』平河出版社.
- 陳継東. 2010. 「中国仏教の現在」『新アジア仏教史08 中国文化としての仏教』佼成出版社. 318-363.
- 李学竹. 2011. 「中国仏教の現状について—福建省仏教を中心に—」『アジア仏教の現在Ⅱ 2011年度第2回国内シンポジウムプロシーディングス』BARC（龍谷大学アジア仏教文化研究センター）.